



VOL. 23 No.2 The University of the Ryukyus Library Bulletin. 1990. 7. 2

## 琉球大学オンライン目録検索システム（OPAC）

### —図書の日録情報をオンラインで検索できるようになりました—

附属図書館では、昭和61年1月に東京の学術情報センターと接続し、一年の試行期間を経て昭和62年1月から本格的に全国総合目録データベース構築の共同作業に参加してきました。以来この4月までの入力件数は和・洋図書で約23,000件を越える数になりました。その間に全学的なオンラインネットワークであるURISON（University of the Ryukyus Information System for Online Network）をとおして、図書の新着案内サービス・雑誌の所蔵検索サービスをおこなってまいりましたが、図書の目録情報については電算化が不十分で、利用者の方々には不便をきたしておりました。このような状況をすこしでも解消すべく、このほど情報処理センターの協力を得て、検索専用のためのデータベースを構築し図書目録情報の検索システムを開発しました。

この目録情報検索システムは、図書館の利用者サービス面での電算化でいわれているOPACのなかに位置づけられ、表題でもOPACとあげておきました。OPACとはOnline Public Access Catalogの略称で、「オンライン閲覧用目録」とか、「オンライン利用者用目録」などと翻訳されま

目	次
琉球大学オンライン目録検索システム（OPAC）	1
西ドイツ・コンスタンツ大学での研究を終えて	4
トピックス	6
図書の受入から整理まで	7
附属図書館関係規程類改正等の要点	11
図書館運営委員会委員名簿	12
本学教官の沖縄関係著作物について	13
お知らせ	10, 19
図書館事情	20
医分館だより	20

す。簡単にいえば、端末機から利用できるように作られたコンピュータを用いた図書館目録のことをさします。これまで利用者が附属図書館の所蔵する文献・資料を入手しようとするとき、その検索手段としてカード目録や簡易冊子体目録を利用していただいておりますが、それに加えてOPACも利用できるようになりました。

このOPACは情報処理センターの提供している情報検索用パッケージFAIRS (FACOM Advanced Information Retrieval System) を利用し、センターの計算機にデータベースを構築しています。これにより図書館内からだけでなく、センターに接続している端末機であればOPACの利用が可能となり、また学内の研究室などに配置されているパーソナルコンピュータ（機種は問いません）からでも学内電話回線を使用してOPACを利用できるようになりました。これまでは図書館の所蔵する文献・資料を調査するのに、図書館に足をはこぶか、電話で問合せするかに限られていましたが、研究室に端末機があればそこで調査することも可能となりました。これはOPACの最大の特徴です。

そのほかにも従来のカード目録には見られない多くの利点をもっています。

まず第一に、検索方法の融通性が高く、より多角的な検索が可能になったことです。書名や著者名からの検索はもちろんのこと、主題（テーマ）や出版者、出版地、シリーズ名、請求記号などからの検索も可能になり、目的とする文献・資料へのアクセスポイントが多様になっています。

第二に、検索語（検索の手がかりとして端末機から入力する語）が不確実な場合でも、より柔軟な検索が 가능합니다。たとえば書名や著者名を正確に記憶していなく曖昧であったとき、手がかりとなる語があれば、たとえそれが一語であっても検索ができ、さらにその検索語の関連語を一覧表示させることによって、これまでカード目録では細心の注意をしなければ見落としがちな資料についても容易に検索できるようになっています。

第三に、和図書・洋図書の区別を意識することなく一度に網羅的な検索ができること、そして検索結果をただちに端末の画面に表示させることができます。さらに必要であれば資料のリストを作成することも可能です。文献・資料の調査に要する時間を多少なりとも短縮できるものとおもわれます。また検索結果を表示する端末画面のスタイルは、カード目録よりも見やすい構成になっています。最後に画面表示の実例をあげておきますので参照ください。

OPACで検索できるデータは次のとおりです。

収録データ件数	69,345件
和図書	45,894件
洋図書	23,451件
収録年度	1987年以降～ (1990年7月1日現在)

附属図書館では、OPACを利用できる専用端末機を図書館2階に3台、医学部分館に2台設置いたしました。

今回搭載したデータは蔵書の一部ですが、今後随時追加して、附属図書館の所蔵する図書情報が充分提供できるようにしたいと考えております。

なお、1986年以前の図書情報については当面OPACでは検索できませんので、従来通りカード目録および簡易冊子体目録を御利用ください。OPACの検索方法など詳細につきましては、別途発行している『琉球大学オンライン目録検索利用の手引き（初版）』を参照してください。

問い合わせ先：学術情報係（内線2146）

### 検索結果の実例

# 1	書誌 I D	BN00259030
	出版年	1986
	書名	中国人の歴史意識／川勝義雄著 〓 チュウゴクジン ノ レキシ イシキ
	出版事項	東京：平凡社，1986.2
	形態	301 P；20cm
	関連書誌	平凡社選書 〓 ヘイボンシャ センショ
	著者	川勝，義雄 〓 カワカツ，ヨシオ 著
	分類	NDC8：222.001 NDLC：GE216
	件名	歴史学 中国――歴史
	所蔵事項	222 〓 ka94／琉大 I D 0000870012576／本館／一般

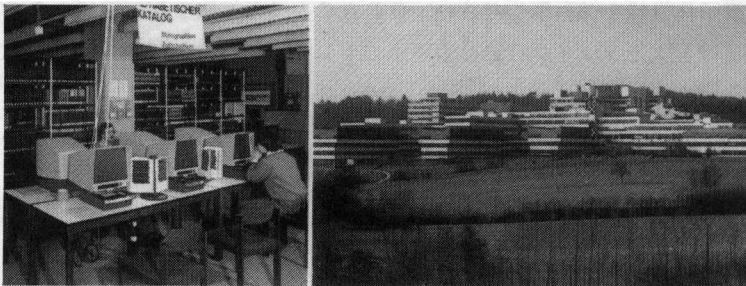
### 和図書の例

# 1	書誌 I D	BA07216602
	出版年	1989
	書名	Meaning and power in a Southeast Asian realm／Shelly Errington
	出版事項	Princeton, N.J.：Princeton University Press, c1989
	形態	322 P.；25cm
	注記	Bibliography：P. 311－318 Includes index
	著者	*Errington, Shelly, 1944－
	分類	LCC：GN635.I65 DC19：306／.09598／4
	件名	LCSH：Ethnology――Indonesia――Luwu LCSH：Spatial behavior――Indonesia――Luwu LCSH：Luwu (Indonesia)――Social life and customs
	所蔵事項	389.24 〓 ER／琉大 I D 0081890012479／研究用

### 洋図書の例

## 西ドイツ・コンスタンツ大学での研究を終えて

吉田 光演



私は、去年1年間西ドイツのコンスタンツ大学に研修する機会を得た。ドイツ滞在はこれが2度目だが、今回は昨秋からの東ドイツの政治体制の崩壊やドイツ統一の激動を肌を感じる事ができ、又、当地の大学で様々な友人に恵まれ、実に素晴らしい体験ができた。コンスタンツは、ドイツ南西部のボーデン湖とスイス国境に面した人口7万弱の小さな町で、1414年の宗教会議の場所として有名だが、今では有数の保養・観光地になっている。小高い森の上にある大学の食堂はまさに展望台の趣で、湖がすぐ下に、そして晴れた日には雪に覆われたスイスの白い山並が見え、抜群の自然環境にある。ここで私は、昨年からはまった言語学科のプロジェクト「レキシコンの理論」に研究員として参加した（DFGドイツ学術振興協会の助成による）。私のグループは、日本語に詳しいヴィーノルト先生の下で「日本語・韓国語の移動動詞の対照研究」を担当した。ドイツ語学が専門の私には韓国語は全くの専門外で戸惑うことも多かったが、韓国側のスタッフやドイツ人との白熱した議論で学ぶこともたくさんあった。音韻体系が異なり、基本語彙に音声面の対応がないにもかかわらず、語彙の意味・文法が驚くほど似通っている。「入る」「出る」「さす」「ぬく」といった動詞とほぼ対応する語があり、その統語的・意味的特性も非常に類似している。例えば、「大通りから路地に入る」とは言えるが、「路地から大通りに入る」とは言えない。これは「入る」には語彙化された意味として、常に移動の出発点が目標より空間的に大きいものでなくてはならないという条件があるためであろう（「出る」はその逆）。その韓国語の対応語も全く同じなのである。我々言語にたずさわる者は、一番近い外国の言語たる韓国語にもっと目を向ける必要があることを痛切に感ずるところである。

長い伝統を持つマンモス大学が多いドイツの大学の中で、同大学は60年代後半に創立された「改革大学」で、学部間の障壁をなくし、専門単位のグループで教育・研究がなされている（この点は琉球大学とも共通する）。「論理学と言語学」といった形のゼミを言語学・哲学・数学のスタッフが共同で主催するというように、学際的な授業も行われている。又、大型プロジェクトなど斬新なテーマとどの学科も取り組んでいて、古い文献学の色強い他の大学の語学と違って、ここの言語学科は創設時から「新しい理論に基づく言語研究」を目指してきた。

テキスト言語学で学会をリードし、今ではアジア諸言語にも積極的に取り組むヴィーノルト氏、生成文法や数学的意味論で数々の論文を精力的に発表しているシュテヒョウ氏、ラテン・ギリシア語に造詣が深く、かつコンピュータによる文法解析という超モダンな領域と取り組むエグリ氏など、



私の接した教授陣は皆、学問的情熱とドイツの徹底性に満ちあふれた素晴らしい人達であった。

学生数9000人足らずの（ドイツでは）小規模の大学にもかかわらず、大学図書館は素晴らしく充実している。マイクロフィルムによる文献検索は言うまでもなく、コンピュータによる検索も実に利用者向きに出来ていて、著者・タイトルの一部を入力するだけで本の登録番号が分かり、貸し出しされている場合には、次の予約が機械で出来るという具合である。どの大学もそうだが、もしそこに本がない場合は、「遠隔借り出し」手続きをすれば、本をまるごと送ってくれる。以前、学生時代にドイツに居た時は、この制度を利用してミュンヘン国立図書館から「日本文学全集」を借りて、日本語を懐かしんだ思い出がある。各部門の図書も便利に整理されていて、どのテーマがどこにあるか、非常に具体的に揭示されている（例えば、入門書、音声学、音韻論、辞書学、統語論、言語学と数学の接点、機械翻訳 etc.）。専門毎に司書が配置されていて、分類が詳細にできるためだろうが、整理・整頓好きなドイツ人の面目躍如の感がある。本は基本的に何冊でも借りることができるし、又、図書館内の机に並べてメモを置いておけば、自分のものとして利用できる。フロア毎にコピー機械が設置されていて、その御世話になったことも数えきれない。新学期には定期的に職員が図書館を案内し、利用方法を教えてくれる。何しろ、徹底して利用者を考えている点は、中央図書館として集中管理されているにもかかわらず、どの学科の教室・研究室からもすぐに当該の専門書の所に行けるように設計されていることでも分かる。つまり、図書館が大学の中心になっていて、そこに面して各学部の建物がらせん状に広がっている訳だ。頭の中が実験室で、かつ書物がデータでもあり、対話の相手ともなる人文科学の徒にとっては、本が近くにあるということは必須条件である。他方、各専攻の資料室に書物が保管されている場合、当の専門家には便利このうえないが、門外漢には近づきがたい。コンスタンツではこの矛盾をうまく解決していて感心させられた。コンスタンツと割合近いチュービンゲン大学、ハイデルベルグ大学などの図書館もその古い伝統に支えられて、規模が大きく、外観も立派だが、機能性の点ではコンスタンツ大の図書館の方が優れているように思えた。各専攻分野の基本図書・参考書が多数収められているだけでなく、更に新学期の始まる前になると、「学期資料」コーナーに、講義・演習のための文献が教官毎に並べられる。学生はこれを読んで、授業の準備ができるので、図書館内を捜し歩いたり、一々研究室に出向く必要もないし、又、教官の方もそれに対応する時間が省ける。たとえ、その授業に出なくても、文献を斜め読みすれば、教員の研究の動向が一目瞭然となるので、昼食後などこのコーナーをぶらぶら眺めるのも楽しい。こうした制度は、スペースの問題さえ解決できれば、是非とりいれて欲しいと思う。

今ドイツは統一に向けて大きく変わろうとし、又、東欧諸国も民主化の歩みを踏み出している。そのさなか、東ドイツの地方大学では図書・雑誌が極端に不足していることを知った。2年ほど前に来日したある東ドイツの教授も、日本の大学の某教官室の書棚にアメリカの言語学の文献が多数あるのを見て羨ましがったそうである。チョムスキーの本が入っても一冊だけで、それを順番で回し読みするというのだから、大変な苦勞である。ちなみに、コピー機は反体制の文書印刷に利用されるかもしれないという理由で、以前は簡単には使えなかったらしい。

ロマン派詩人達のゆかりの地・イエーナの大学では外国雑誌がほとんどない現状で、コンスタンツ大の言語学科でも組織的に本を寄贈する計画を立てている。政治・経済面の改革・援助が先行している現状だが、学問面のこうした交流にもっと注目すべきだろう。私達も、何らかの形で東ドイ

ツや東欧に対する学問的貢献・援助に手をさしのべてはどうだろうか。

(よしだ みつのぶ：法文学部助教授・ドイツ語学)



### ◎歴博がデータベース検索サービス開始

平成2年4月から国立歴史民俗博物館では、次のデータベースについて、オンライン検索サービスを開始した。なお、収録データ件数は平成2年2月現在。

#### ①民俗誌 (5,203件)

日本各地の村落の、民俗学、人類学、社会学、経済学、法社会学等の分野に関する現地調査報告書、県史、市町村史、郷土誌を、地域別に整理した文献情報で、沖縄県については、基本的な資料がほとんど収録されている。

#### ②貿易陶磁文献目録 (3,399件)

貿易陶磁を出土した国内遺跡の文献に関する情報、遺跡に関する情報、遺物に関する情報から成っており、全国規模で集成された唯一のもの。

#### ③旧高旧領取調帳 (97,360件)

明治政府が編纂した江戸時代末期の全国村名目録を、国、郡ごとに村名、旧領名、旧高（石高）、旧県名で収録したもの。

### ◎NACSIS-IRに「現行法令データベース」等追加

学術情報センターが提供しているオンライン検索システムに、このたび次のデータベースが追加され、利用が可能になった。

#### ①現行法令データベース (3,495法令)

平成元年9月までに制定された、憲法、法律、政令、勅令を収録。更新は年2回。

(コマンド名 LAW)

#### ②学術論文データベース第一系 (電子)

電子情報通信学会の論文全文を収録。図表、数式等については、ファクシミリによる出力が可能。(コマンド名 PAPER1)

#### ③研究者ディレクトリ (13万人分)

わが国の大学、短大、高専、大学共同利用機関、文部省文化庁関係機関、民間学術研究機関等の常勤研究者の氏名、所属機関、専門分野、研究テーマ、主要著書、論文等を収録。(コマンド名 RES)

以上のデータベースの利用手続き等に関する問い合わせは、情報サービス課学術情報係（内線2146）まで。

## 図書の受入から整理まで

### 1. 図書の受入について

図書館での教官研究用図書購入請求手続きの方法が変更になりました。新しい購入請求の手続きの説明をしておきます。また、この機会を利用して図書館の図書がどのような処理手順を経ているかについてもあわせてご説明したいと思います。図書館に図書購入を依頼して後、図書を手にするまで時間がかかるとの苦情を耳にしますが、理解の一助になれば幸いです。

図書館では図書の購入請求をうけて利用に供するまでに購入請求受付、発注、検収、会計処理、登録、分類、目録、装備という一連の処理をしています（図1）。

また、図書館で受入れる図書館資料の種類としては、大きく分けて学生用図書（学生要求、教官選定、図書館選定）、院生用図書、教官研究用図書、指定図書、参考図書、沖縄関係資料などに分けられます。

ここでは、教官研究用図書を例として具体的にそれらの各段階について説明していきます。その他の場合は必要に応じて補足説明します。

まず、教官研究用図書を購入請求する時には、5枚綴りの購入請求票（図2. 図書館閲覧カウンター、受入係あるいは各学部の会計係にあります）を書くことから始まります。書名、著者名、出版者名、出版年、冊数、定価、請求者氏名、所属学部学科を記入していただきます。

これまでは3枚綴りの購入請求票を直接図書館に提出していましたが、この4月からは、手持ちの研究費の確認をしてもらうために5枚綴りの購入請求票を最初に学部の会計係に提出して、そこで承認印をもらうことになりました。ここで1枚目が学部の控えとなり、残りの4枚綴りを図書館の受入係に提出します。このところが今年度変更された点です。学生用図書など教官研究用図書以外の場合はこれまでと同様に、3枚綴りの購入請求票を記入して受入係に提出してください。その際には、その図書がまだ本学図書館に所蔵されていないことを確認の上提出してください。

また、年度末に支払手続が集中するため、購入請求票の提出期間も設定いたしました。年度内発注を行うためには、和書の場合には1月末まで、洋書の場合は12月末までに提出していただきます。特に図書購入請求、発注等の年度末への集中を避けるため、早めに図書購入請求手続きをされますようお願いいたします。

図書館では学部の承認印を確認して書店に照会します。和書は主として県内の書店に、洋書は洋書取扱の専門書店に発注します。洋書の場合は在庫の有無で入手の時間が相当異なります。在庫のある書店があれば、請求票の提出時にその旨をお知らせください。

学生用図書の場合は、複本調査を行って発注します。

地元の書店に在庫がある場合はすぐに入手できますが、在庫がない場合には、和書は書店から取次店にいき、ほぼ1月程度かかります。洋書の場合も、国内に在庫があるときは和書と同様1月程度ですが、海外への発注となると3月以上を要します。絶版等の場合には事故伝票として連絡がきますので、その旨を請求者にも連絡します。

図書が届いたら図書館ではその場で検収を行ないます。検収では納入された図書が請求した図書と違ってないか、金額はあっているかなどをチェックします。

次に、受入れた図書について会計的な処理を行います。購入請求票へ実際の納入価格を記入し、

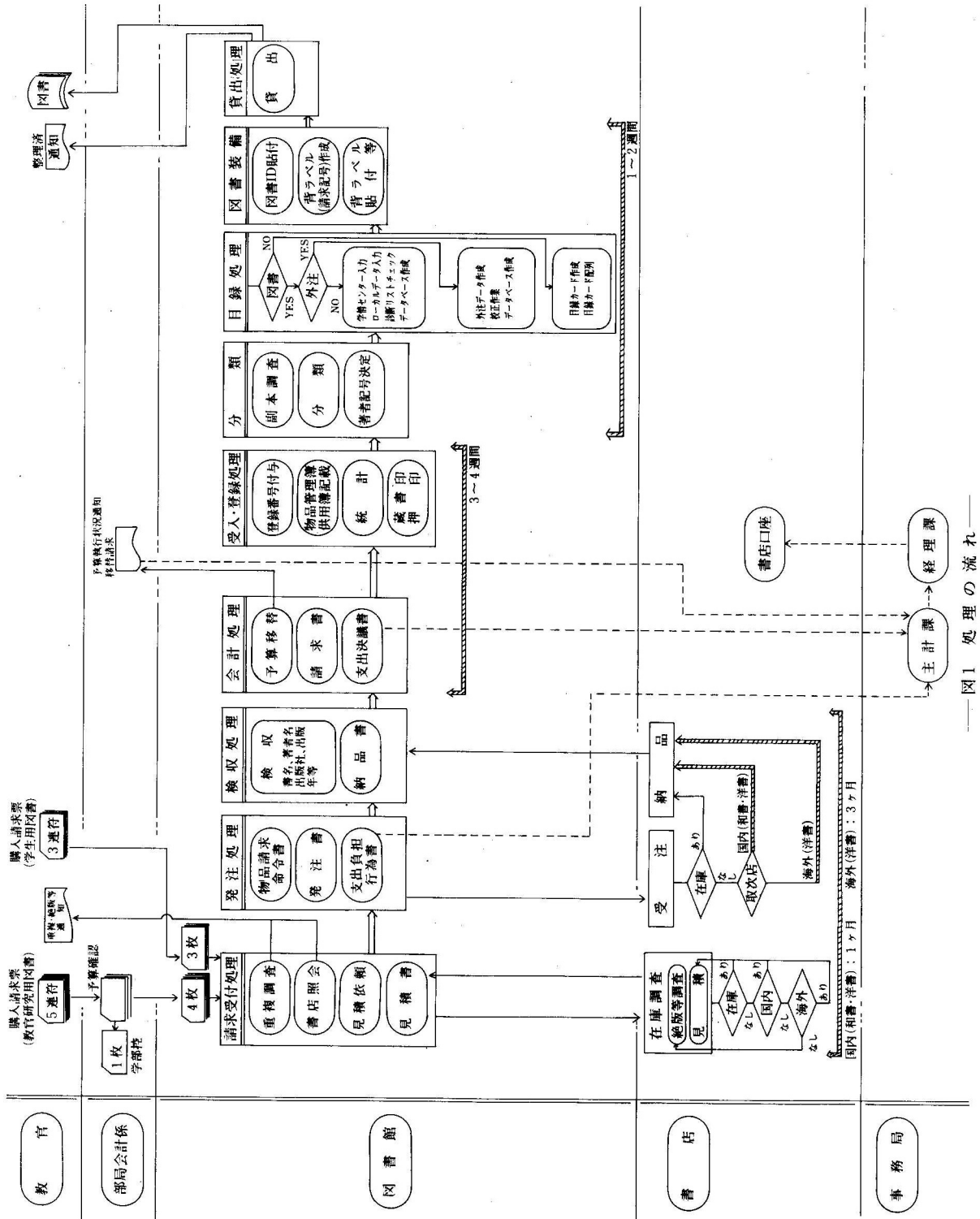


図1 処理の流れ

学部ごとの予算執行額を把握して各学部の会計係に連絡し、現品と納品書、見積書、請求書などから支払行為をおこします。この段階で値引きは適正か、外貨の換算は適正かなどのチェックも行います。館内で決済を受け、更に事務局の監査係の審査を受けます。

会計的な処理が終わると登録作業にかかります。図書も国有財産ですので、財産登録をする訳です。登録番号を付番し、登録簿を作成します。検収からこの登録までの期間が大体3～4週間かかります。

受入係でこれらの処理が終わると現物を整理係にまわします。

学部確認印	<b>購 入 請 求 票</b>		研 究 用 院 生 用	学 生 用 指 定 図 書
	著 者 名 : Author:			
請求番号	書 名 : Title:			
照会番号	Ed.		No. of Copies	
書店名	発 行 所 Publisher	発行年月日 Date of issue	単価 (unit price)	冊数 Vols.)
	￥ 合計額 ￥ Total price			
受入年月日 平 年 月 日 整No.	※登録番号		請求者名 (Name)	
	※太枠内を記入してください。		学部	
			学科	
		琉球大学附属図書館	本館	医分館

図2. 購入請求票

(この項、受入係担当)

## 2. 図書の整理について

昭和61年1月、本学が学術情報センター (NC) と接続したことにより、1ヵ年の教育モードでの研修のあと、昭和62年1月よりオンラインによる目録登録を開始しました。これはこれまでの手書による目録カードの作成から、学術情報センターにあるMARC (和書はJAPAN MARC, TRC MARC, 洋書はLC MARC, UK MARC等) の書誌データーを書名、著者名その他で検索することで書誌のデーターを自館のデーターとして利用し、更に自館の所蔵データーを入力することで全国書誌を作成し、相互協力による省力化をはかろうとするものです。

従来の目録カードは1冊1冊について必要な書誌事項をカードに記入し、用途に応じて種々の目録を作成し、一定の順序でこれを配列していくため、時間がかかり年々増加する図書の整理について、迅速性にかける難点がありました。目録作成の電算化はこの点ではたしかに省力化につながるものですが、本学の場合、地理的条件もあって図書の流れ、即ち、選定→発注→納品・検収→支払

→登録→目録作成・装備→貸出までに時間がかかり特に年度末は教官用図書の購入請求、入荷が集中する傾向にあり整理の段階においてもNCとの接続時間の制限や接続端末機の台数との関係もあって利用に供する迄ある程度の期間が必要になっています。従来、研究用図書はもとより図書館備付図書の整理もできるだけはやく処理するよう心掛けてきましたが、現在、図書の流れも含めて各行程での見直し、合理化もすすめており、今後より早く資料の提供が出来るものと思われます。

目録カードレスの時代の到来は利用方法については、従来の閲覧用目録カード及び冊子体蔵書目録から電算機の利用へと変わってきており、オパック (Online Public access Catalog) 等により、本学でも利用者は館内の端末機及び学内の研究室の端末機を通じて図書館資料の検索をできるようになっています。

(この項、整理係担当)



#### ◎長期貸出の開始と開館時間の短縮について

夏季休業に伴い、6月30日(土)から長期貸出を開始します。返却期限は9月10日(月)で、貸出冊数は大学院学生が15冊まで、学部及び短期大学学生が10冊までとなっています。また、7月10日(火)から8月31日(金)までの間は、開館時間が平日17時まで、土曜日が12時30分までとなります。

#### ◎新書本コーナーの新設について

このたび本館3階ラウンジの一角に、新書本コーナーを設置しました。現在ここに置かれているのは岩波新書(新版)で、今後は新規分が整理され次第、随時配架されます。

もちろん、館外貸出もできますので、大いにご利用ください。なお、近く回転式の専用書架が入る予定です。



## 附属図書館関係規程類改正等の要点

附属図書館では、このたび関係規程類を整備しました。以下に、改正等の要点についてご紹介します。なお、各規程の冒頭に冠してある「琉球大学附属図書館」は、省略します。

### ◎文献複写規程

私費の1枚当りのコピー料金を、学内者は40円から20円に、また、学外者は50円から35円に改訂されたことによる改正です。

### ◎利用規程

- 1) 本館と医学部分館の利用規程を一体化します。このため、同分館利用規程については廃止します。
- 2) 貸出対象図書の区分（アメリカ研究図書、沖縄開架図書等）を撤廃します。
- 3) 新たに雑誌の館外貸出を行います。

### ◎学外者利用規程

- 1) 現行の学外者閲覧細則を、大学図書館の公開の観点から全面的に見直しし、規則の名称をより適切なものに改正します。
- 2) 学外者の定義、利用対象資料及びサービスの範囲を明確にし、学術研究上特に必要があると認められた場合には、1人につき3冊、10日間の範囲で、館外貸出を行います。

### ◎施設利用内規

- 1) 本館と医学部分館にある館内施設の利用内規を共通に運用できるよう統合します。
- 2) 利用手続を簡素化します。

### ◎研究個室利用申し合せ

施設の名称が現行では教官閲覧個室になっていますが、大学院学生も利用の対象であるため、この実態に合わせて名称を改正します。

### ◎運営委員会規程

この委員会の下部組織としての専門委員会を、設置できる根拠となる条項を補足します。

### ◎医学部分館運営委員会規程

この委員会の下部組織としての専門委員会を、設置できる根拠となる条項を補足します。

### ◎沖縄研究資料調査収集専門委員会内規

- 1) 運営委員会に専門委員会の設置に関する条項を補足したことに伴い、条文を整備し、委員会の名称を小委員会から専門委員会に改正します。
- 2) 所掌課は情報サービス課であることを補足します。

### ◎共同利用学術雑誌専門委員会内規

- 1) 運営委員会に専門委員会の設置に関する条項を補足したことに伴い、条文を整備し、委員会の名称を学術雑誌見直し検討委員会から、標記のものに改正します。
- 2) 所掌課は情報管理課であることを補足します。

### ◎共同利用学術雑誌選択基準

選択の対象とする資料の範囲や、設置場所に関する条文の表現をより適切にします。

## 図書館運営委員会委員名簿

平成2年度の図書館運営委員は次のとおりです。

平成2年5月1日現在

部 局	職 名	専 攻	氏 名	任期
図 書 館	館 長	電 子 工 学	(あふそ ちゅうしん) 安富祖 忠 信	自昭和63年11月1日 至平成2年10月31日
医学部分館	分館長	外科学第二 講 座	(くさば あきら) 草 場 昭	自平成2年4月1日 至平成4年3月31日
法 文 学 部	助 教 授	国際法及び 法 哲 学	(さかもと しげき) 坂 元 茂 樹	自平成元年4月1日 至平成3年3月31日
〃	助 教 授	中国文学及 び琉球文学	(うえさと けんいち) 上 里 賢 一	自平成2年4月1日 至平成4年3月31日
教 育 学 部	教 授	彫 塑	(にしむら さだお) 西 村 貞 雄	自平成元年4月1日 至平成3年3月31日
〃	助 教 授	食 品 学	(ひがしもり きよこ) 東 盛 キヨ子	自平成2年4月1日 至平成4年3月31日
理 学 部	助 教 授	解 析 学	(しが ひろお) 志 賀 博 雄	自平成2年4月1日 至平成4年3月31日
〃	助 教 授	堆 積 学	(きむら まさあき) 木 村 政 昭	自平成元年4月1日 至平成3年3月31日
医 学 部	教 授	内科学第一 講 座	(さいとう あつし) 齋 藤 厚	自平成元年10月1日 至平成3年9月30日
〃	教 授	保健技術学 講 座	(しまだ かつまさ) 島 田 勝 政	自昭和63年10月1日 至平成2年9月30日
工 学 部	助 教 授	電 子 機 器 学	(たから とみお) 高 良 富 夫	自平成元年4月1日 至平成3年3月31日
〃	助 教 授	制御システム 工 学	(たまき しろう) 玉 城 史 朗	自平成2年4月1日 至平成4年3月31日
農 学 部	教 授	森林保護学 森 林 工 学	(おおぎみ ちようえい) 大宜見 朝 栄	自平成元年4月1日 至平成3年3月31日
〃	助 教 授	農産施設学 工 学	(あきなが たかよし) 秋 永 孝 義	自平成2年5月1日 至平成4年4月30日
教 養 部	教 授	文 学	(なかほど まさのり) 仲 程 昌 徳	自平成2年4月1日 至平成4年3月31日
〃	助 教 授	経 営 学	(となき あきら) 渡名喜 明	自平成2年4月1日 至平成4年3月31日
短期大学部	教 授	政 治 学 史	(がべ まさお) 我 部 政 男	自平成2年4月1日 至平成4年3月31日
〃	助 教 授	機械材料及 び機械工作	(やら ひでお) 屋 良 秀 夫	自平成2年4月1日 至平成4年3月31日

## 本学教官の沖縄関係著作物について

このリストは、本学教官による沖縄研究に関する著作（主として刊本）のうち、附属図書館に所蔵するものを刊行年順に記載したもので、学術雑誌や学内紀要等に発表された論文類については割愛してあります。

なお、リストの作成には慎重を期していますが、後日調査漏れであることが判明したものについては、改めて追加掲載します。

これらの資料は、本館の沖縄関係閉架書庫に配置されており、教官は自由に入庫できますが、学生についてはカウンターで手続きし、館内での利用となります。大いに活用されることを願っています。

最後にこの場を借りて、今後著作物を刊行された場合は、ぜひ附属図書館にご恵贈くださるようお願いいたします。

## 琉球大学教官沖縄関係著作

—1989年12月現在—

兼島 清	琉球諸島に産するリン鉱石の基礎的研究（学位論文）		1961
高良 鉄夫	琉球列島における陸棲蛇類の研究（学位論文）		1962
高良 鉄夫	ハブ＝反鼻蛇－恐るべき毒ヘビの全貌－	琉球文教図書	1963
比嘉 幹雄	Politics and Parties in Postwar Okinawa（学位論文）	Univ. of British Columbia	〃
琉球大学沖縄文化研究所	宮古諸島学術調査研究報告（地理・民俗編）	同研究所	1965
宮里 清松	甘蔗の初期生育に関する研究（学位論文）		〃
大田 昌秀他	沖縄の言論	南方同胞援護会	1966
宮里 政玄	アメリカの沖縄統治	岩波書店	〃
安里 彦紀	沖縄の近代化を阻んだ歴史的要因についての研究（学位論文）		〃
島袋 伸三	Change in Land Use in Okinawa Since 1940.（学位論文）		〃
篠原 士郎	琉球産フエダイ科魚類の形態・分類ならびに分布に関する研究（学位論文）		〃
松田 貢	The Government of the Kingdom of Ryukyu, 1607～1872（学位論文）		1967

砂川 季昭	沖縄に生育する広葉樹林のBitterlich法による 材積推定ならびに収穫予測に関する研究 (学位 論文)		1967
琉球大学沖縄 文化研究所	宮古諸島学術調査研究報告 (言語・文学編)	同研究所	1968
嘉味田宗栄	琉球文学発想論	星印刷 (印刷)	〃
照屋 善彦	Bernard J. Bettelheim and Okinawa. (学位論 文)		1969
大山 保表	リュウキュウマツの造林ならびに施業に関する 基礎的研究 (学位論文)		1970
琉球大学史学 会	南島史論	同史学会	1972
大田 昌秀	近代沖縄の政治構造	勁草書房	〃
金城 正篤他	沖縄県の歴史	山川出版	〃
〃	伊波普猷—沖縄史像とその思想—	清水書院	〃
亀川 正東	沖縄の英学	研究社	〃
湧上 元雄他	沖縄・奄美の民間信仰	明玄書房	1973
武村 健一	珊瑚礁地域の地形	同遺族出版委員会	〃
中松 竹雄	沖縄語の文法	沖縄言語文化研究所	〃
外間 宏一	甘蔗の赤変に関する生化学的研究 (学位論文)		〃
丸杉孝之助	沖縄におけるさとうきびを中心とする作付方式 に関する研究 (学位論文)		1974
田盛 正雄	沖縄に分布するPhytophthora属菌と植物疫病と くにパイナップルしんぐされ病に関する研究 (学位論文)		〃
宮里 政玄編	戦後沖縄の政治と法—1945～72—	東京大学出版会	1975
仲松 弥秀	神と村	伝統と現代社	〃
東 清二	沖縄の昆虫類	風土記社	〃
中松 竹雄	南島方言の記述的研究	根元書房	1976
大田 昌秀	沖縄崩壊—「沖縄の心」の変容—	ひるぎ社	〃
〃	沖縄の民衆意識	新泉社	〃
平田 永哲他	戦後沖縄の精神薄弱教育の歩み	比嘉興文堂	〃
池宮 正治	琉球文学論	沖縄タイムス社	〃
嘉味田宗栄	琉球文学表現論	〃	1977
仲松 弥秀	古層の村—沖縄民俗文化論—	〃	〃
上原 方成	沖縄における地盤災害とその対策に関する研究 (学位論文)		〃
金城 正篤	琉球処分論	〃	1978

安里 彦紀	沖縄教育講話	沖縄時事出版	1978
稲福 盛輝	沖縄の医学—医学・保健統計資料編	考文堂	1979
吉川 武彦編	沖縄における精神衛生の歩み	県精神衛生協会	〃
池原 真一	概説沖縄県農業史	月刊沖縄社	〃
池原 貞雄他	陸の脊椎動物	新星図書出版	〃
嘉味田宗栄	琉球文学序説	至言社	〃
與那國 暹他	沖縄の村落共同体論	至言社	〃
我部 政男	明治国家と沖縄	三一書房	〃
我部 政男	明治15・16年 地方巡察使復命書	三一書房	〃
中松 竹雄	沖縄語の世界	友古堂	1980
阿波根直誠	沖縄県の戦前における師範学校を中心とする教員養成についての実証的研究	沖縄教員養成史研究会	〃
大田 昌秀	沖縄人とは何か	Green-life社	〃
木崎甲子郎編	琉球の自然史	築地書館	〃
比嘉 照夫	沖縄の園芸 基礎編	沖縄タイムス社	〃
松田 賀孝	戦後沖縄社会経済史研究	東大出版会	1981
岡本 恵徳	現代沖縄の文学と思想	沖縄タイムス社	〃
〃	沖縄文学の地平	三一書房	〃
西里 喜行	論集・沖縄近代史	沖縄時事出版	〃
仲程 昌徳	近代沖縄文学の展開	三一書房	〃
比屋根照夫	近代日本と伊波普猷	〃	〃
我部 政男	近代日本と沖縄	〃	〃
大田 昌秀	This was the Battle of Okinawa	那覇出版社	〃
宮里 政玄	アメリカの対外政策決定過程	三一書房	〃
同論文刊行委員会編	琉球の言語と文化—仲宗根政善先生古希記念—	同論文刊行委員会	1982
嘉味田宗栄	琉球文学小見	沖縄時事出版	〃
池宮 正治	近世沖縄の肖像 上, 下	ひるぎ社	〃
〃	沖縄芸能文学論	光文堂	〃
〃	琉球文学論の方法	三一書房	〃
宮城悦二郎	占領者の眼	那覇出版社	〃
津波 高志	沖縄国頭の村落 上, 下	新星図書出版	〃
中松 竹雄	琉球言語地図	九大出版会	〃
仲程 昌徳	琉球文学の内景	沖縄タイムス社	〃
比屋根照夫	自由民権思想と沖縄	研文出版	〃
比嘉 政夫	沖縄民俗学の方法	新星社	〃
尚 弘子	沖縄産甘蔗成分の白ネズミ血清および肝臓脂質に及ぼす影響 (学位論文)	〃	〃

比嘉 照夫	沖縄の園芸 野菜編	沖縄タイムス社	1982
仲間 勇栄	沖縄県の林野制度と林野利用に関する史的研究 1, 2 (学位論文)		1983
田里 友哲	沖縄における開拓集落の研究 (学位論文)		〃
島袋 善光	諺に見る沖縄の心		〃
伊志嶺恵徹	公法の研究	沖縄時事出版	〃
中松 竹雄	沖縄の方言	桜風社	〃
森田 孟進	南島の憂うつ	あき書房	〃
仲宗根政善	沖縄今帰仁方言辞典	角川書店	〃
中山 満	沖縄の地理	新星図書出版	〃
田里 友哲	論集・沖縄の集落研究	離宇宙社	〃
木崎甲子郎	海に沈んだ古琉球	沖縄タイムス社	〃
比嘉 政夫	沖縄の門中と村落祭祀	三一書房	〃
安里 彦紀	近代沖縄の教育	〃	〃
小島 瓊禮	琉球学の視角	柏書房	〃
大田 昌秀	沖縄の帝王・高等弁務官	久米書房	1984
〃	那覇10・10空襲	〃	〃
仲間 勇栄	沖縄林野制度利用史研究	ひるぎ社	〃
関根 賢司	異郷・沖縄・物語	オリジナル企画	〃
木崎甲子郎他	琉球の風水土	築地書店	〃
渡嘉敷綏宝	沖縄の山羊	那覇出版社	〃
吉野 哲夫	沖縄釣魚図鑑	新星図書出版	〃
大田 昌秀	The Battle of Okinawa	久米書房	〃
鶴飼照喜代表	沖縄社会の実証的研究と社会構造変動に関する 研究 (昭和58年度科研費成果報告書)		〃
池原 貞雄他	陸の脊椎動物 (琉球列島動物図鑑)	新星図書	〃
大城 常夫	地域発展と組織化	ひるぎ社	1985
加藤 祐三	奄美・沖縄岩石鉱物図鑑	新星図書出版	〃
石川 友紀	比較アジア移民学の課題と方法	名古屋大学	〃
目崎 茂和	琉球孤をさぐる	あき書房	〃
本川 達夫	サンゴ礁の生物たち	中央公論社	〃
比嘉 政夫	外国人による日本地域研究の軌跡	古今書院	〃
鈴木 雅夫	沖縄の住宅	ニライ社	〃
仲地 博	総合的平和保障の憲法学的研究	平和研究会	〃
〃	沖縄の自治と自治体	ひるぎ社	〃
仲宗根平男	沖縄産有用木材の性質と利用	琉球林業協会	〃
琉球大学法文 学部編	戦後沖縄における社会行動と意識の変動に関する 研究 (特定研究)		〃



木村 政昭	地震と地殻変動ー琉球列島と日本列島	九州大学出版会	1985
國府田佳弘	バイオテクノロジー等の先端技術を利用した沖縄の生物生産技術の高度利用に関する調査研究	産業研究所	〃
木崎甲子郎	琉球孤の地質誌	沖縄タイムス社	〃
平良 初男	琉球石灰岩地域に産する陸性マンガン団塊の地球化学的研究 (学位論文)		〃
中山 満	沖縄の社会科百科	沖縄出版	1986
仲程 昌徳	沖縄近代詩史研究	新泉社	〃
宮里 政玄	アメリカの沖縄政策	ニライ社	〃
外間 政章	琉球をめぐる英米文学	光文堂 (印刷)	〃
氏家 宏	琉球孤の海底	新星図書出版	〃
福島 駿介	沖縄における木工系技術及びその伝承に関する研究	新住宅普及社	〃
山里 将晃	南からの発想	ひるぎ社	〃
秋永 孝義	沖縄県産物の流通技術に関する実証的研究 (学位論文)		〃
小島 環禮	琉球古鐘銘集成	小島研究室	〃
石嶺 行男	琉球列島におけるサトウキビ畑の雑草植生の実体と強害草の生態・生理学的研究 (学位論文)		〃
新城 明久他	日本の在来馬ーその保存と活用ー	日本馬事協会	〃
宮里 清松	サトウキビとその栽培	日本分密糖協会	〃
鈴木 雅男	歴史の町なみ 中国・九州・沖縄篇	日本放送出版協会	〃
嘉数 啓	島しょ経済論	ひるぎ社	〃
島袋 邦	沖縄と東アジア、東アジア間の国際交流の歴史と展望に関する学際的研究	法文学部	〃
諸喜田茂充	沖縄の危険生物	沖縄出版	〃
玉城 嗣久	沖縄占領教育政策とアメリカの公教育	東信堂	1987
氏家 宏	沖縄・八重山群島石西礁と周辺海域自然環境の現況と形成過程	海洋出版	〃
福島 駿介他	沖縄における伝統的建築技術の伝播と定着に関する研究	住宅建築研究所	〃
福島 駿介	沖縄の石造文化	沖縄出版	〃
東 清二	沖縄昆虫野外観察図鑑 全4巻	〃	〃
比嘉 政夫	女性優位と男系原理ー沖縄の民俗社会構造ー	凱風社	〃
琉球大学公開講座委員会	琉球大学放送公開講座 1～4 1) 国際化時代と生涯教育 2) 沖縄の産業 3) 音楽芸術教育の理論と実践 4) 沖縄のサンゴ礁	琉球大学	〃
池宮 正治	おもろさうし精華抄 おもろ研究会編	ひるぎ社	〃

東 清二他	沖縄産昆虫目録	ひるぎ社	1987
氏家 宏	沖縄・八重山群島石西礁と周辺海域の自然環境 の現況と形成過程（昭和61年度科研費成果報告 書）		〃
仲宗根政善	琉球方言の研究	新泉社	〃
中松 竹雄	琉球方言辞典	那覇出版社	〃
仲程 昌徳	伊波月城－琉球の文芸復興を夢みた熱情家－	リプロポート	〃
琉球大学公開 講座委員会	沖縄の民俗文化（琉球大学放送公開講座 7）		1988
仲程 昌徳	沖縄文学の方法	新泉社	〃
我部 政男	沖縄資科学の方法	〃	〃
河名 俊男	琉球列島の地形	新星図書出版	〃
金城 光子	舞踊における美への視点	九州大学出版会	〃
〃	沖縄の踊り－教材化への方法を求めて－	沖縄コロニー	〃
尚 弘子	南の島の栄養学	沖縄出版	〃
加藤 祐三他	ニライ・カナイの島じま 池原貞雄共編著	築地書館	〃
西平 守孝	沖縄のサンゴ礁	沖縄県環境科学検査 センター	〃
〃	フィールド図鑑 造礁サンゴ	東海大学出版	〃
諸喜田茂充	サンゴ礁域の増養殖	緑書房	〃
氏家 宏	沖縄本島中・南部の地質図（浮遊性友孔虫化石 帯に基づく）	国建	〃
仲程 昌徳	池宮城積宝作品集 津乗節子共編	ニライ社	〃
〃	沖縄の原像－内と外の相克－大石芳野共著	ニライ社	〃
〃	島うたの昭和史－沖縄文学の領分	凱風社	〃
山盛 直	熱帯地域の森林資源回復に関する研究（昭和63 年度科研費成果報告書）		〃
仲程 昌徳	沖縄近代詩集成（1）（2）（同上）		〃
秋永 孝義	1) 農産物用航空コンテナの換気性能の改良		〃
國府田佳弘	2) いくつかの沖縄県産農産物の呼吸特性（同 上）		
金城須美子	沖縄の食文化の特徴（同上）		〃
池宮 正治	日本文学における琉球文学定位と文学史研究再 編の試み（同上）		〃
木崎甲子郎	綾状構造の研究－琉球列島四万十帯の重複変形 －（同上）		〃
目崎 茂和	南島の地形－沖縄の風景を読む－	沖縄出版	〃

島袋 敬一	琉球列島植物相の解明と検討（昭和62年度科研費成果報告書）		1988
石島 英	台風学のすすめ－沖縄からみた台風，自然と風土－	新星図書出版	1989
島袋 邦	論集・沖縄の政治と社会	ひるぎ社	〃
〃	現代沖縄の地方政治と国内的・国際的環境	琉球大学法文学部	〃
新垣都代子	沖縄における婦人の役割に関する研究（昭和61～63年度科研費成果報告書）		〃
坂本 盤雄	沖縄の集落景観	九州大学出版会	〃
関根 賢司	おきなわ評論	海風社	〃
島袋 邦・比嘉 良充編	地域からの国際交流	研文出版	〃
鈴木 雅夫	居住風土のデザイン	ひるぎ社	〃
池田 孝之編	地域からの発想	〃	〃



#### ◎図書館利用案内の作成について

1990年版の利用案内を作成し、今年度の新入生や新しく本学の職員となった方々に配布しました。まだ残部がありますので、希望者はカウンターまで。

#### ◎模範六法（CD-ROM版）の購入について

本館のCD-ROM資料として新たに模範六法（三省堂製）を購入しました。379件の法令について、キーワードによる検索、事項索引からの検索、法令名及び条数からの検索が可能です。既に購入済みの資料である①電子広辞苑②現代用語の基礎知識③8か国語辞書、最新科学技術用語辞典④朝日新聞データベースもあわせてご利用ください。

#### ◎研究用図書貸出の機械化について

研究用図書の貸出手続が、これまでのマニュアル方式からコンピュータ方式に変更になります。一般貸出と同様に、ハンドスキャナーから利用者IDナンバーと図書IDナンバーを読み取らせるだけで、手続は終了します。貸出を受ける際は、極力職員証をご持参ください。これは、職員証の裏面に利用者IDナンバーが打たれているためです。

## 図 書 館 事 情

### 〔会議〕

平成2年5月17日(木)第184回図書館運営委員会

議題：1. 図書館図書充実に関する基礎資料について 2. 図書廃棄委員会細則について 3. 指定図書制度の在り方について 4. その他

### 〔人事異動〕(平成2年4月1日付)

前情報管理課長 橋本健一(九州大学附属図書館情報サービス課長へ)

情報管理課長 松本連蔵(前福岡教育大学学生部教務課長補佐)

医学部分館整理係長 大城弘安(前情報管理課総務係長)

情報管理課総務係長 知念栄(前教育学部庶務係長)

情報サービス課学術情報係長 松原敏夫(前情報管理課受入係長)

情報管理課受入係長 本郷清次郎(前情報サービス課学術情報係長)

情報サービス課参考調査係長 金城照子(前情報管理課整理係長)

情報管理課整理係長 豊平朝美(前医学部分館整理係長)

情報サービス課閲覧係長 仲西盛秀(前同課参考調査係長)

前情報サービス課閲覧係長 宮島恵曠(3月31日限り停年により退職)

## 医 学 部 分 館 だ よ り

### ◎CD-ROM資料の利用について

医学部分館では、4月10日から1階ホールにCD-ROM用端末機を設置しています。現在利用できる資料は、DIALOG社製のMedline CD-ROM(1984年～1990年最新版、8枚)です。

利用者自身が端末を操作し、キーワードを入力して、必要な情報を検索し、その結果をプリントしたり、自分のフロッピーディスクにダウンロードすることができます。

開始後1ヵ月経過しましたが、この間の利用状況は以下のとおりです。

(4月10日から5月9日まで)

職 員		院 生 医		院 生 保		学 生 医		学 生 係		合 計		1日平均	
人	枚	人	枚	人	枚	人	枚	人	枚	人	枚	人	枚
56	262	27	134	20	109	16	70	5	16	124	591	6	27

概して利用者の反応は好評で、なかでも大学院生、研究生などにとっては、これまで研究費が使えないために利用できなかったオンライン情報検索サービスに代わるものとして歓迎されています。また、教官からもCD-ROMがオフラインであるために、検索時間や料金を気にしないで済むという率直な意見が寄せられています。

Medlineの内容も、1984年から最新刊のものまでカバーし、月1回の頻度で更新されているため、質量ともに大きな不満はなく、機器の操作も比較的簡単であると受け止められています。

設置当初は、業者提供のマニュアルに不満があったこと、ダウンロードが可能なフロッピーディスクの種類が不明であったことなど利用者がとまどう場面がありました。

また、ディスクケースから取り出して、直接CDを入れたためのエラーや、CDの枚数分だけディスクケースを用意しなかったために頻繁にCDに触れ、指紋等の汚れでリードエラーを起こしたケースもありました。これらについては、ほぼ改善されています。

今後の対応として、利用者からCDチェンジャー（CDを自動入替する）の設置、利用者の増大に対処するため予約制と利用時間の制限、機器の増設等が要望されていますが、図書館でもこれらについて前向きに検討しています。

ただ、日本語による検索の実現や、必要な文献ナンバーを記憶させ、検索後にまとめて出力する方法等については、システム上の問題ですから、メーカーが直ちに改善できるかは分かりません。いずれにせよ、この検索サービスがますます活発に利用されることを願っています。

## CD-ROMを使ってみて

CD-ROMが平成2年4月より医学部図書館に入り、私たち図書館の利用者は大変喜んでおります。CD-ROMはIndex Medicusと違う点は、①その多くがSummaryが書かれてあり、Title（タイトル）だけではわからない部分も、知ることができるようになった。知りたい文献の選択性が向上した。②プリントもできるため、今までのようにメモする必要がなく時間を短縮できた2点です。それから、望むこととしては、CD-ROMにInputされた情報が遅いということです。5月現在で1月の文献が入ってなかったりします。今はスピード化の時代です。1～2ヵ月前の情報が入ってくればと、切実に感じます。

医学部地域医療センター

助手 普久原 浩

◎平成2年4月1日付けで医学部分館運営委員会委員が代わりしました。新委員は次のとおりです。

氏 名	所 属	任 期
草場 昭	(外科学第二・教授・分館長)	平成2年4月1日～平成4年3月31日
平田幸男	(解剖学第一・教授)	平成2年4月1日～平成4年3月31日
佐藤良也	(寄生虫学・教授)	平成2年4月1日～平成4年3月31日
齋藤 厚	(内科学第一・教授)	平成元年10月1日～平成3年9月30日
武藤良弘	(外科学第一・教授)	平成2年4月1日～平成4年3月31日
大澤 炯	(泌尿器科学・教授)	平成2年4月1日～平成4年3月31日
山本 茂	(基礎保健学・教授)	平成2年4月1日～平成4年3月31日
今村禎祐	(保健技術学・教授)	平成2年4月1日～平成4年3月31日
島田勝政	(保健技術学・教授)	昭和63年10月1日～平成2年9月30日

〔寄贈図書・雑誌等〕

元年2年3月より4月までにご寄贈いただいた主な分を掲載します。(敬称略)

草場 昭 (外科学第二教授)

「南山堂医学大辞典」 1990 分類; W13

福田雅俊 (眼科学教授)

「Human Blood Coagulation, Haemostasis and Thrombosis.」 1976 分類; W H 310 他44冊

琉球大学医学部医学科第四期卒業生一同 タピストリー 「鳳凰戯牡丹」

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第23巻 第2号〔通巻第87号〕

平成2年7月2日 発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話 (09889) 5-2221 内線 (2143) びぶりお編集委員会